

令和7年度 第2回学校運営協議会（記録）

令和7年度第2回学校運営協議会を、令和7年12月15日（月）10時00分より、5名の委員の出席のもと開催しました。

学校見学では、幼稚部から高等部の学習の様子を参観しました。幼稚部の「自由あそび」を参観した委員の皆さんは、おもちゃを介しながら友達同士でコミュニケーションを図っている様子を見て、笑顔になっていました。また、小学部や中学部の教科学習では、個別の実態に合わせた学習の様子を参観したり、学校内の掲示物を見たりと、委員の皆さんはとても興味深そうに参観していました。

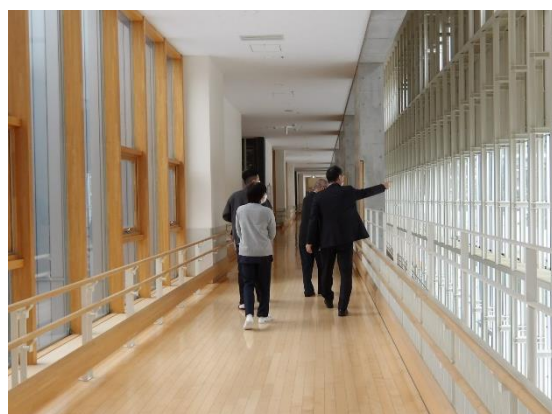
学校内の施設説明時には、秋に設置完了したばかりの体育館のエアコンについて校長より説明をし、本校が災害時の際に地域の避難所になることなどを交えながら説明をしました。

次に、教頭より「第73回文化祭」及び、現在までの「地域との連携」について報告をしました。

今年度の文化祭は昨年同様、基本的な感染症対策を実施しながら観覧するご家庭の人数制限を解除し、隣接している北海道立子ども総合医療・療育センター（以下、コドモックル）の職員の方の他に同窓生や地域の方も観覧可能として実施することができました。また、Microsoft forms を使ってご家庭の参加者人数の集約をしたり、大学生ボランティアの協力を得たりするなど、新しいことも取り入れながら、コロナ禍以前の様子に少しずつ戻すことができたことを報告しました。

また、外部機関によるオンラインでの工場見学や出前授業等、入院中のため校外に行くことが難しい本校の児童生徒が、校内にいながらも様々な体験ができていることや、「秋の自衛消防訓練」では、今年度より地域の方と一緒に取り組むことを本格的に再開し、本校の子どもたちが地域の方々と一緒に煙体験をしたことなども併せて報告しました。

「地域との連携した活動に向けて」に関する意見交換では、各学部で小学校・中学校・高等支援学校と交流学习を実施していることを報告し、委員の方々からは、「幼い頃から交流を重ねることで、お互いに理解しようとする気持ちを育むことができるため、継続して実施して欲しい。」「お互いの情報を交流することで、壁がなくなり、どのような支援が必要なのかを理解することで、自然と助け合うことにつながると思う。」などという意見が出ていました。



また、昨年度の転出入の延べ人数が 150 人を超えている状況に、委員の方から「主な入院の原因は何か」「行事前に転入してきた場合はどのように受け入れているのか」など、本校について質問が挙がり、その質問に絡めながら、各委員の方からコドモックルの入院状況や今後の見通し、それに伴う今後の本校のあり方など、積極的な意見交流となりました。

最後に、校長より、次の学習指導要領改訂に向けた中間報告について説明をし、今後は卒業後の自分の将来を自分で舵取りできるようにする教育へと転換していくことが伝えられ、大人から言われた通りにするのではなく、自分自身が「やってみたい」と思うことが重要。病気や障害のために「どうせできない」ではなく、「これだったらできる」というように、自分で方法を考え、表現できる力を育む教育が大切となること。それに伴い、教員は、先頭に立って子どもたちを引っ張るのではなく、後方から伴走するイメージの指導が必要となる。また、子どもたちが学んだことを実際に使ってみる、経験してみることがとても重要になるため、そのような場面でぜひ、コドモックルや地域の方々にご協力をいただきたいと思っていることを伝えました。



次回は、2月に開催予定です。

(主幹教諭 白 木 宜 子)